

新入生合宿研修を終えて～新入生合宿研修の目的と意義

口腔生命科学系列・教授
新潟大学歯学部学生支援委員会委員長 小野和宏

平成17年4月9日(土)、10日(日)の両日、新潟大学歯学部および新潟厚生年金スポーツセンターを会場として、平成17年度歯学部入学生を対象とした合宿研修を開催いたしました。歯学科新入生39名、歯学科3年次編入生5名、口腔生命福祉学科新入生20名の学生と、歯学部長(兼歯学科長)、口腔生命福祉学科長、新潟大学医歯学総合病院副院長を始めとした16名の教職員、ならびに学生アシスタントとして歯学科2年生4名、口腔生命福祉学科2年生2名の総勢86名が参加しました。

この新入生合宿研修は、昭和50年代後半から行われている歴史ある活動です。平成12年度からは、歯学部教科課程の全面的な見直しにともない、それまでの内容を一新し、新教科課程の教育効果を高める一助との位置づけとして、ワークショップ形式で行われるようになりました。

ご承知のように、新潟大学歯学部では、1. 患者の痛みや苦しみを理解できる人間性豊かな人材、2. 自ら問題を解決できる能力をもつ創造性豊かな人材、3. 独創的な科学的視野をもつ人材、4. 超高齢化社会に貢献でき、総合的判断を身につけた人材、5. 地域医療の貢献・向上に努める人材、6. 国際社会で活躍できる人材の養成を教育理念として掲げており、これに対応すべく、平成12年度から新教科課程を開始しています。この新カリキュラムは歯科医師、歯科衛生士、社会福祉士という高度専門職業人を育てることはもちろん、それ以前に、良識ある社会人・個人としての成長、教えられる学習から自ら学ぶ学習への転換を図り、生涯にわたって学習する態度を身につけることを基本として編成されています。実際には、1年次前期に開講する導入教育としての「歯学スタデイスキルズ(大学学習法)」が核となっており、ここで学んだ思考過程とコンピューターに関する技能を基盤とし、特色あるさまざまな専門コース

が組み立てられています。

新入生合宿研修は、クラスメート、教職員、および同窓生とコミュニケーションを図ることにより、グループにおける自分の位置や役割、対人関係の重要性を実感することはもちろんですが、その一方で、初歩的な問題発見解決型学習法を経験することにより、前述した「歯学スタデイスキルズ」等の新教科課程へのスムーズな移行を目的としています。

自己紹介を兼ねたアイスブレイキングの後、代表的な問題発見解決法の一つであるK-J法および二次元展開法を用いた小グループ討論により、新潟大学歯学部入試における面接試験の問題点と解決策を、学生たちは自分たち自身で検討し発表します。また、「万代太郎」という架空の新潟大学歯学部学生が過ごした学生生活をシナリオとして、PBL テュートリアルといわれる問題基盤型学習を模擬体験し、「万代太郎」ならびに彼の受けた歯学教育の問題点や解決策を討論します。学生たちは、その過程で、自分自身の問題点にも思い至ることになります。なお、討論の結果はグループ・プロダクトとしてまとめられ、このプロダクトは「歯学スタデイスキルズ」において、ワードやパワーポイント等の演習課題としても使用されます。また、学生たちが抽出した面接試験の問題点は歯学部入試委員会に、カリキュラムの問題点は歯学部教務委員会にフィードバックされ、結果として、学生たちは入学試験制度や教育制度の改善に自ら参画することになります。

新入生合宿研修は、新しい環境に早く溶け込み、多くの友人を作るきっかけとなれば、それだけで十分なわけですが、これからの6年間ないしは4年間の歯学部生活では、誰でも何かしらの問題に必ず遭遇すると思われ、その時に、合宿研修での経験が少しでも役立てばと希望しています。